



萩・明倫学舎

2号館 世界遺産ビジターセンター



場所/萩市江向602番地

開館時間/午前9時～午後5時 レストラン ①午前11時～午後3時 ②午後6時～午後9時(②は予約のみ)

料金/本館無料 2号館 大人300円 高校生200円 小・中学生100円(団体20名以上割引あり)

休館日/2月第1火曜日及びその翌日 レストラン 毎週火曜日・第3月曜日 問合せ/萩・明倫学舎 TEL 0838-21-0304

旧明倫小学校校舎を活用した萩の観光起点施設「萩・明倫学舎」。本館には観光インフォメーションセンター、萩藩校明倫館を紹介する展示室や、ジオパークのビジターセンター、萩産食材を使ったレストラン、萩の特産品が揃うショップ、小学校の教室を再現したノスタルジックな復元教室などがあり、2号館には萩の5資産を含む「明治日本の産業革命遺産」を紹介する「世界遺産ビジターセンター」や、幕末の歴史・科学技術史の実物資料を紹介する「幕末ミュージアム」があります。近代化の原点といわれる萩の5資産の位置づけや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした先駆的役割などを、映像やパネル、レプリカの展示などにより楽しく学ぶことができます。

世界遺産を
動画でも
たのしもう

萩

HAGI 産業遺産群

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution : Industrial Heritage Sites in Hagi

GUIDE MAP



車をご利用の方

中国自動車道美祿東JCT経由、「小萩萩道路(無料)」絵堂I.C.から約20分

飛行機をご利用の方

- 萩・石見空港
 - 乗合タクシーで約75分 (予約制 前日までに申込が必要)
- 山口宇部空港
 - JR新山口駅までバスで約30分、JR新山口駅からバスで約60分
 - 乗合タクシーで約75分 (予約制 前日までに申込が必要)
- ご予約・お問い合わせ
萩近鉄タクシー(株)
TEL(0838)22-0924



新幹線をご利用の方

- JR新山口駅より
- スーパーはぎ号(直行バス)(約60分)
- 防長バス(約95分) 新山口駅～東萩駅

●お問い合わせ
防長交通株式会社案内所
TEL(0838)22-3816
JRバス中国株式会社お客様センター
0570-010-666

観光のお問い合わせ

萩市観光課
TEL(0838)25-3139(土・日・祝休み)
萩・明倫学舎
TEL(0838)21-0304
(一社)萩市観光協会
TEL(0838)25-1750
NPO萩観光ガイド協会
TEL(0838)25-3527
萩温泉旅館協同組合(日休み)
TEL(0838)22-7599

2024年9月

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、次の世に引き継いでいける人類共通の宝物です。ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が世界遺産条約に基づいて、毎年1回登録を行っています。世界遺産には「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」の3種類があります。

世界遺産とは



明治日本の産業革命遺産は、幕末から明治末までの世界的な価値を持っています。このことは、経済大国となった日本の礎になるとともに、産業国家としての地位を確立しました。かつて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げ、明治時代後期には日本は、幕末における西洋技術の導入以来、西欧以外の地域で初めて、かつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げ、明治時代後期には産業国家としての地位を確立しました。

日本の産業革命遺産は、幕末から明治末までの世界的な価値を持っています。このことは、経済大国となった日本の礎になるとともに、産業国家としての地位を確立しました。かつて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げ、明治時代後期には日本は、幕末における西洋技術の導入以来、西欧以外の地域で初めて、かつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げ、明治時代後期には産業国家としての地位を確立しました。

23の資産(うち萩市は5資産)で構成されています。日本の産業革命遺産は、幕末から明治末までの世界的な価値を持っています。このことは、経済大国となった日本の礎になるとともに、産業国家としての地位を確立しました。



長州ファイブと呼ばれる彼らは、欧米の近代文明を学ぶため、幕末期にイギリスへ密航留学しました。帰国後は、海防強化だけでなく産業の近代化に取り組みました。伊藤博文は初代内閣総理大臣、井上馨は初代外務大臣、遠藤謹助は造幣局長、井上馨は鉄道局長となり、山尾庸三は工部卿(脚は現在の大田)となり工業の父といわれ、それぞれの分野で近代化に大きく貢献しました。国を守りたいという強い使命感と冒険心を併せ持つ若き力が、新しい日本の創造を可能にしたのです。

長州ファイブと呼ばれる彼らは、欧米の近代文明を学ぶため、幕末期にイギリスへ密航留学しました。帰国後は、海防強化だけでなく産業の近代化に取り組みました。伊藤博文は初代内閣総理大臣、井上馨は初代外務大臣、遠藤謹助は造幣局長、井上馨は鉄道局長となり、山尾庸三は工部卿(脚は現在の大田)となり工業の父といわれ、それぞれの分野で近代化に大きく貢献しました。国を守りたいという強い使命感と冒険心を併せ持つ若き力が、新しい日本の創造を可能にしたのです。

明治日本の産業革命はここから始まりました。日本の近代化に挑んだ5人の萩藩士! 国を超え、時代を駆けぬけ

2015年7月登録

世界遺産 明治日本の産業革命遺産

～製鉄・製鋼、造船、造船、石炭産業～

萩

産業遺産群

GUIDE MAP

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution : Industrial Heritage Sites in Hagi

世界遺産を
動画でも
たのしもう

01



萩城下町

はぎじょうかまち
1600年の関ヶ原の合戦で敗れた毛利輝元により萩城・萩城下町が計画的に建設されました。以後260年間、萩は萩(長州)藩の政治・行政・経済の中心地として栄え、当時の地域社会の姿をあらわしています。江戸時代は士農工商の身分制度が確立されており、萩城下町も武士と町民の暮らす区域は厳格に区別されていました。資産の範囲は①城跡、②旧上級武家地、③旧町入地の3地区です。



- ①城跡
◆萩市大字堀内1ほか
観覧料大人220円
- ②旧上級武家地
◆口羽家住宅
観覧料100円
- ③旧町入地
◆菊屋家住宅観覧料650円
◆旧宅等観覧料各100円

HAIGI
萩 世界遺産
バーチャルアバベンチャー
タブレットやスマートフォンを利用して、萩市に存在した世界遺産の風景を眺めることができます。例えば恵美須ヶ鼻造船所跡では「丙辰丸」や「庚申丸」の姿や造船所の建物の様子が見られます。恵美須ヶ鼻造船所跡や萩城跡ではタブレットの貸し出しも行っていきます。



萩反射炉

はぎはんしやろ
反射炉とは、鉄製大砲の製造に必要な金属溶解炉です。萩(長州)藩の海防強化の一環として導入が試みられました。萩(長州)藩は佐賀藩の反射炉のスケッチを入手し、それを基に建設しました。萩反射炉の大きさはオランダの原書の寸法から約7割程度の規模です。1856年の一時期に金属の溶解実験が行われました。残っている遺構は砲台にあたる部分で、高さ10.5mの安山岩積み(上方一部レンガ積み)です。萩(長州)藩の試行錯誤を伝えると共に、我が国の産業技術史上、大変貴重な遺跡です。

◆萩市大字構東4897-7ほか
萩市内中心部から北東へ約5km

02

恵美須ヶ鼻造船所跡



えびすがはなぞうせんじよあと
1853年、幕府は軍艦・海防力の強化を目的に大船建造を解禁し、のちに萩(長州)藩にも大船の建造を要請しました。1856年に萩(長州)藩は西洋式軍艦の製造を学ばせるため、尾崎が在衛門(おさきごえもん)を伊豆の戸田村(へたむら)に派遣しました。ロシア式の技術を移入し、1856年12月には、萩(長州)藩最初の洋式軍艦「丙辰丸(へいしんまる)」が建造されました。その後、長崎経由でオランダ式の技術も移入し、1860年には2隻目の洋式軍艦「庚申丸(こうしんまる)」が進水しました。丙辰丸建造には大板山たたら製鉄所が使用されたことが確認されています。2つの異なる造船術が一つの造船所で確認できる唯一の造船所として貴重な遺跡であり、現在も当時の規模のままの防波堤が残っています。

◆萩市大字構東5159-14ほか
萩反射炉から海側へ約0.7km
大型車通行不可

03

松下村塾



◆萩市大字構東1537-1
市内中心部から東へ約1.5km

しょうかそんじゆく
萩(長州)藩の兵学者 吉田松陰が主宰した私塾です。松陰は、1854年、25歳の時、伊豆下田でフランスカ艦船に乗り込み海外渡航を試みましたが失敗しました。投獄されたのちに実家の形家(国史館吉田松陰園/旧宅)に謹慎となり、1856年から門人への指導を開始し、1857年には現在する敷地に移ります。松陰は従来の軍事的に危機感を持ち、海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、自力で産業化の実現を図ろうと説きました。塾生からは高杉晋作や、のちに「長州ファイア」と呼ばれた内の人である伊藤博文をはじめ日本の近代化、工業化の過程で重要な役割を担った多くの逸材がここで学びました。

04

大板山たたら製鉄遺跡



◆萩市大字紫福10257-5ほか(山のロタム北側)
萩市内中心部から北東へ約23km
狭路な道のため、大型車通行不可

おおいたやまたらせいづせいせき
砂鉄を原料に、木炭を燃焼させて鉄を作っていた江戸時代のたたら製鉄の跡です。砂鉄と木炭を研に入れ、備(いご)を用いて行います。この製鉄法は「たたら」といい、日本の伝統的な製鉄方法です。宝暦期(1751~1764年)の8年間、文化・文政期(1812~1822年)、幕末期(1855~1867年)の3回操業していました。原料の砂鉄は島根県から北前船を利用して、大板山のたたら場で作られた鉄は、恵美須ヶ鼻造船所で釘や錠などの部品にも使用されました。

05

